小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表　R3

法人名	有限会社　在宅ナースの会	代表者	小菅　清子
事業所名	小規模多機能型ハウス ふくふく六浦	管理者	村野　延枝

法人・事業所の特徴	京浜急行六浦駅から徒歩５分、近隣には公園が複数ある閑静な住宅街にあります。 明るい日差しが差し込むデイルームにて「いつもふくふくとした笑顔と笑い声がたえない居心地の良い空間と場所づくり」という理念を目指し業務上での実践を心がけています。通い・宿泊・訪問のサービスを柔軟に組み合わせ 地域の方々の在宅生活の支援をさせていただいています。地域のボランティアさんの協力を受け笑顔の絶えない家庭的な雰囲気で過ごしています。また調理専門のスタッフによる旬の食材を使った彩り鮮やかな食事や季節行事の特別メニューに利用者の皆様、大変喜んでいただけています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	１人	２人	１人	１人	１人	人	２人	人	８人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の 確認	年数回の研修には各職員 2 回は参加するように研修委員中心に働きかけていく。	年間の研修予定を事前に掲示。各スタッフに個別で参加要請を行う。欠席のスタッフには文書にて伝達。配信での研修は出席率が高かった。	研修等人が集まりにくいコロナ渦であるが、配信研修等工夫して活動を盛んなものにしてもらいたい。	自己評価について今年度も更に周知を進めていく。 研修委員中心に、参加促進を行っていく。
B．事業所の しつらえ・環境	駐車位置の固定。自転車置き場を決めて、利用者様の歩行の妨げにならないようにする。 事業所の自転車もすぐに出せるように駐輪場所を固定する。 利用者様の来所の楽しみとして今年も植物を育てる。	駐車スペースに駐車位置を固定する事により、駐輪場所も固定できるようになった。利用者の歩行スペースを確保出来るようになった。 フロアに花を活けたり、球根の植え込みなど行い、季節を感じていただくことができた。	歩行者・自転車・車・バスと交通量が多い道路に面しているため、十分注意していただきたい。	駐車・駐輪スペースの固定遵守。 安全運転の遵守。 室内の環境整備をこまめに行い利用者の活動を安全なものにしていく。 室内装飾を利用者と共に作り達成感・充実感を感じていただくようにする。
C．事業所と地域の かかわり	地域行事再開の際は、ふくふくが出来る活動を地域に提供していく。	地域活動の再開の目途がたたず参加の機会が全くない状態であった。	コロナウィルス感染症の流行が終息に伴い地域行事も再開すると思われるので、参加を期待している。	コロナ渦でなにもできないではなく、コロナ渦だから出来る事を探していく。
D．地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	ふくふく以外で利用者に関わって下さる方の把握に努める。 ケアマネ・管理者だけでなくスタッフにも周知して、利用者様に必要な力を使わせていただけることを考えていく。	利用者・家族・主治医・薬局との連携が大分スムーズにできるようになってきたと思う。今後も利用者に関わる方々と連携を図っていく。	情報の収集をする事で、地域の中でのふくふくの力を伸ばして欲しい。	コロナ渦での生活環境の変化に柔軟に対応することで、利用者の生活を支えていく。

E. 運営推進会議を活かした取組み	コロナ渦で開催が難しい１年になると考えられるが、スタッフが会議に参加する機会を設ける。	会議の主旨や報告は開催のたびにミーティングを利用してスタッフに伝えることが出来たが、スタッフの参加は今年もできなかった。	地域の情報交換の場として有効に会議を利用してもらいたい。コロナ渦での地域との関わりを考える場にして欲しい。	毎年実施できないスタッフの参加を計画し、会議の主旨など理解を深めてもらうようにする。
F. 事業所の防災・災害対策	引きつづき年２回の訓練を行うとともに、昨年できなかった避難誘導訓練を活動の一環として行っていく。 備蓄品の管理･リスト化を徹底していく。	年２回の防災訓練は予定通り実施できたが、避難誘導訓練を活動の中に取り組めることができなかった。備蓄品のリスト管理や補充はこまめに行う事が出来た。	自治会との連携を図り、避難場所としての機能を備えていただきたい。	次年度予定の防災訓練には、地域住民の方々の参加を集い、地域の中のふくふくの存在をもっと深めていく。 開催前には文書にて連絡を行うようにする。